

福祉常任委員会懇談会報告書

1 開催日時

令和8年2月5日（木）午後1時30分～午後2時30分

2 会場

八千代市役所4階 第2委員会室

3 出席者

(1) 母子保健推進員の皆様（各7地区代表者）

(2) 八千代市議会福祉常任委員会

委員長	大塚裕介	副委員長	高橋秀行
委員	澤田新一	委員	高山敏朗
委員	成田忠志	委員	飛知和真理子
委員	堀口明子		

4 議題

母子保健推進員の活動とその課題について

5 開催趣旨

本懇談会は、関係諸団体との自由な意見交換により、委員会及び委員の専門性の向上を図り、政策提言及び委員会活動の参考とし、市民に開かれた民主的な市議会を実現することを目的に開催するものです。

懇談会の相手方となる母子保健推進員は、子育て経験のあるボランティアとして、保護者が楽しく安心して子育てができることを目的に、生後2～3か月頃の赤ちゃんがいる家庭を対象に家庭訪問を行う乳児全戸訪問活動や地区ごとの勉強会や子育て支援者との交流会など、地区の状況に合わせたグループ活動を通じて、行政と子育て世帯の重要なパイプ役を担っていただいています。

そこで、本委員会は各7地区の代表を務める母子保健推進員を招き、今後の委員会活動に生かすべく「母子保健推進員の活動とその課題について」をテーマに懇談会を開催した。

6 懇談会概要

懇談会の冒頭、各出席者の自己紹介を行った後、大塚委員長より福祉常任委員会の概要の説明、母子保健推進員の代表者から主な活動内容についての説明がなされ、その後、フリートークによる意見交換を実施した。

懇談内容としては、母子保健推進員と行政との情報共有について、各家庭訪問時に母親から新設保育園や保育園申請手続などの保育園に係る相談を受けることが多いが、相談に対応するための情報が母子保健推進員に伝わっていないことから、子ども部内における情報共有の仕組みを改善し、母子保健推進員と適切な情報の連携を図っていただきたいとの意見があった。

また、外国籍住民の増加により、言語の壁が課題となっており、ポケットークや翻訳アプリを活用して対応しているものの、母子保健推進員のみならず、保健師の負担が大きいため、保健師の人数を増やすなど支援体制の強化を図っていただきたいとの意見や、母子保健推進員の報酬が月額2,000円と低額であり、活動の持続性や新規参加者の確保が困難であることから、将来的には有償ボランティアによる公募も含めて、母子保健推進員の担い手不足を解消する施策を考えていただきたい等の意見があった。

本懇談会は約1時間にわたり行われ、委員長の結びの挨拶により終了した。



7 懇談会を終えて

今回の懇談会では、子育て世帯と直に接し、子育てに係る様々な相談を受けている母子保健推進員の方々の経験や問題意識に基づいた貴重な意見を聞くことができ、非常に有意義なものであった。本委員会は、今回の懇談内容を通して、政策提言や施策のチェックなど、今後の活動に活かしてまいりたい。